

『新座稲門会便り』(No.13)
 新座稲門会会報(2021年9月)
 編集発行:新座稲門会幹事会

◇校友会情報◇

～“ホームカミングデー”“稲門祭”
 初のオンライン開催へ!～

早稲田大学校友会の事務局から、今年の10月24日(日)に開催予定の「ホームカミングデー」と「稲門祭」が、新型コロナウイルス感染状況が改善されないため、初のオンラインによる開催になるとの連絡がありました。なお「ホームカミングデー」については2022年度と2023年度に2年分の卒業生を招待し、実現できた後に通常の形式(1年分の招待)に戻していく予定とのこと。詳細は以下のサイトで確認してください。

- ・早稲田大学WEBサイト
<https://www.wasedaalumni.jp/hcd/>
- ・稲門祭WEBサイト
<http://www.wasedaalumni.jp/tomonsai>

☆☆特集:杉原千畝☆☆

◆会員からの報告◆

① オペラ「人道の桜」公演

早稲田大学出身で第二次世界大戦中にリトアニアで、ユダヤ人のためにビザを発給して6000人もの命を救った杉原千畝の実話を基にした、杉原千畝物語 オペラ「人道の桜」の公演が、8月8日に平塚市中央公民館で開催されました。

コロナ禍の中、客席数は半分にし、コロナ対策を十分に取ったうえで、の公演でした。



今回のオリピックで平塚市がリトアニアのホストタウンということもあり、平塚での公演が決まった次第

です。終演後は鳴りやまない拍手とスタンディングオベーションもあり、多くの皆様に感動を与えたようでした。齋藤幹事長と伊藤博幹事には、遠路はるばる来ていただき有難うございました。

このオペラの制作委員会が4年前に、早大出身者をメインに設立され、私も副委員長としてお手伝いをしています。今まで、岐阜で2回と敦賀で1回、それと、今回の平塚と合わせて4回公演してきましたが、これからも杉原千畝の功績を伝えていくために、各地で公演を開催していく予定です。

(伊藤雅夫・1966・理工・東北)

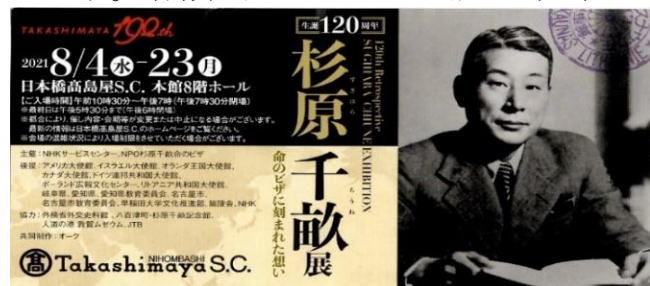


② 生誕120周年杉原千畝展を見て

7月上旬に齋藤幹事長から展覧会の無料招待券をいただき、8月11日に日本橋高島屋で開催されている「生誕120周年杉原千畝展」に行ってきました。私自身、イスラエルに関わる仕事をしているため、杉原千畝の命のビザ発給に関わる記録や資料は何度も見たことがありますが、今回はそれだけではなく、彼が外交官になった経緯や、彼がリトアニアへ赴任したときに乗った客船の食事のメニュー、など、個人に関わる展示もあり大変興味深く拝見しました。

また、彼が満州で働いていたときは、ロシア語を駆使して諜報活動で重要な仕事をしており、「人道」だけではなく、優れたインテリジェンスオフィサーとしての杉原が語られても良いような気がします。齋藤幹事長、有難うございました。

大学の本部キャンパスに杉原のレリーフがあることは知らなかったもので、今度見に行こうかと思えます。(新井均・1980・電気修・野寺)



◆参考《「杉原千畝」に関する情報》◆

① 千畝の出身地：岐阜県八百津町

「杉原千畝記念館」

「決断の部屋」という、当時のリトアニア日本領事館執務室を再現した部屋があります。

【HP】杉原千畝記念館 www.sugihara-museum.jp

② 「岐阜県八百津町」杉原ウィーク 2021

「杉原千畝記念短歌大会」

千畝の命日(7/31)前後を「杉原ウィーク」とし、妻の幸子さんが短歌を詠んだことから始まり、今は誰でも応募が可能です。

【HP】八百津町 <https://www.town.yaotsu.lg.jp>

◆◇◆会員近況報告◆◇◆

★昨年からのコロナウイルスによる「新型肺炎」感染拡大のため、沢山のイベントが中止に迫られました。ニュースで報道されるような大規模なものだけでなく、客席数が40~50くらいの小さい劇場で上演されてきた公演も軒並み中止となってしまいました。

私自身も昨年出演するはずだった芝居が、いわゆる「ZOOM演劇」となり、PCに向かって演技をするという初めての経験をいたしました。

1年が経ち、感染症流行は一向に収まりませんが、今年5月に「兎団」という社会人劇団の「精神を病んでしまった少女の話 朱夏編」という芝居にキャストとして参加しました。

この劇団は西武池袋線江古田を本拠地にしており、正規の劇団員は6名、公演ごとに出演者を募っています。



初めて参加したのは、4年前、「mixi」という交流サイトに出演者募集の記事を見つけたのがきっかけでした。「80年代の香りを掲げる劇団」の文字。

1980年代と言えば、私がガッツリ学生時代。

世は学生芝居が全盛期を迎える序盤のころで、大隈講堂の裏からは学生劇団の発声練習をする声がかつても聞こえていました。

これは参加するしかない！とコンタクトを取ったのがきっかけで、これまでに6本の芝居に参加しています。内容的には、いわゆる「新劇」ではなく「80年代のなんでもあり」的な、作者(全作品オリジナルです)の独特の作風です。

メンバーには医療関係者や介護従事者もいて、そこからの情報を参考にもしながら感染防止に細心の注意を払い稽古を重ね、本番も1回の上演につき客席数を12席に絞って、上演にこぎつけました。稲門会でも観に来ていただいた方があり、感謝しております。

これから先、舞台に立つ機会があるのか、どれだけあるのか分かりませんが、「芝居はライフワーク」と思いながら、今はmixiではなく「シニア劇団 募集」を検索する日々です。

(秋浦良子・1985・法・野寺)

★会報ありがとうございました。楽しく読ませて頂きました。

私、生来メカに弱く、運転免許も、パソコンも、スマホも持ち合わせていません。家族からスマホ位はと馬鹿にされていますが、八十路の意地で突っ張っています。ガラパゴスより白亜紀のシーラカンスです。

そういう訳で「紙」の人生です。真に申し訳なく、お手数ですが今後とも紙でお願い致します。すみません。

コロナの収束は来年でしょうか。コロナとは闘わず逃げましょう。ご自愛をお祈り致します。

(栃原堯・1963・第1法・新堀)

※会報は原則HP掲載で、通信環境が不備な会員の方に郵送しています。

《訃報》

本会会員の山下淳一氏(1968年・商・野火止)が、去る令和3年8月18日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

